

WILSON
AUDIO



WILSON AUDIO
WATT / WAP / WHOW
SPEAKER SYSTEM

WATT™
WILSON AUDIO TINY TOT

WAP
WILSON AUDIO PUPPY

WHOW™
WILSON HIGH OUTPUT WOOFER

WATT series 3

スピーカーに要求する機能は、音楽をみる窓。私達は、CDやLPに刻まれた信号を取り出し、スピーカーによって人間の耳に理解できる音のウェーブに変換します。それは、信号の翻訳機とも言えます。さて、その翻訳において原文と異なった脚色がついてきては、原文を知らない私達はおおいに惑わされます。曲解、誤解のもととなってしまいます。原文の良さもよく解からなくなります。そこで極めて正確でこちよ翻訳が必要ですが、これは大変難しい。原文を知り、私達が心を打たれるような優れた翻訳ができなければ、その意味はなくなってしまいます。愛情と知識と、手間、暇をかけ、妥協せずにつくらなければ、良いものがないのです。

ウィルソンは録音から出発

D.ウィルソンは、医療機器メーカーのエンジニアをしていた頃から音楽をこよなく愛し、優れた録音のレコードが少ないのに嘆いていました。録音とステレオ装置によって今の愛妻と結ばれ、録音家とその良き理解者であると共に厳しい批評家である愛妻という、音楽愛好家、オーディオエンジニアとしては理想的な家庭を築きました。

ウィルソンはたった一度の録音チャンスしかないロケーション録音の良否をストレートに判断できるモニターの必要性からWATTを作り、ヨーロッパでのレコーディングを終えました。そのころから、そのスピーカーを使ってハイファイ再生が出来ないか、という要望がウィルソンレコードのファン達から持上って来、ついに87年シカゴCESで発表したのが、WATTです。以来2回の改良を経てWATTシリーズ3となっています。

WATTは妥協しないロケーションモニター

ウィルソンがスピーカーに要求したのは、自分自信の録音の正しい翻訳です。録音した信号に一切の不要な信号を付けないスピーカーが真のモニターであるという基本姿勢から出発、アンプ、コンソール、マイク、ケーブルをも判断するスピーカーを作り上げる。ウィルソン自身アブソルートサウンド誌の評論家であり、まさに録音と評論というソフトとハードに関わる理想的なスピーカーデザイナーといえましょう。

スピーカーを音楽をみる窓に例えれば、あくまで透明で、遠方まで見渡し、見通しがきく。しかも、限りなく透明ですから、演奏者の熱気が手に取るように分かる、それがウィルソンの言う透明度の高いスピーカーなのです。その目的達成のために、特に次の点に注意を払いました。

1. 共振 エンクロージャはメタクリレートポリマー。この材質自体共振性の低いものですが、更にクロスプレーシングを施しています。更に、エンクロージャのスイートスポットに亜鉛板を配置し、徹底した共振対策を行ないました。
2. ネットワーク スピーカーのなかは、非常に強い風が吹き荒れています。その風がネットワークのコンデンサーに当たると、コンデンサーのマイクロフォニックイフェクトにより、発振が起こります。この微小なレベルでの発振が音を曇らせます。さらにツイーターには、それ自体の振動板がおこすバックウェーブがツイーター振動板に及ぼす悪影響を排除するため個別にチューニングしたチューブトラップを付け、バックウェーブを完全におこさせない徹底したはずみ対策を施しています。

WATT

Enclosure Type / Ported Q83 Nominal Impedance / 4ohms Woofer Diameter / 165mm Tweeter Diameter / 25mm Frequency Response / 3db, 55Hz to 16KHz SPL, 1W at 1m / 91dBA Min. Amp Power / 30W Dimensions / W305mm H356mm D419mm Weight(pair) / 54.6Kg

PUPPY

Nominal Impedance / 4 to 11ohms Woofers / Two 216mm per unit Passive Mode Frequency Response, +0, -3dB / 28-125Hz(with port contribution) SPL, 1W at 1m / 91dBA Min. Amp Power / 50W Finish / High-Gloss black laminate, or Wilsongloss Dimensions / W286mm H610mm D406mm Weight(pair) / 72.9Kg

WHOW

Efficiency / 98dB Power Handling / Better than 1000W peak Impedance / 8ohm average, 5ohm minimum -3dB point / Low pass at 50Hz, High pass at 15Hz to 20Hz, depending on room placement AC Power Consumption / Electronic Crossover: 50W, 400W power amp (Pow-WHOW only) 150W idle: 1000W max. The power amp may be left on at all times. WHOW-U Power Requirements / 80W minimum with good 20Hz, square wave linearity *Exotic Veneer or Wilsongloss with Solid Granite Top finish = Dimensions / L1022mm H445mm W762mm Weight / 162Kg (WHOW-U), 187Kg (Pow-WHOW) *Solid Synthetic Granite finish = Dimensions / L1001mm H413mm W749mm Weight / 102.5Kg (WHOW-U), 127Kg (Pow-WHOW)

これにより、ツイーターの振動板はそれ自体の振動のみを空気に伝え、後方に放射した音波の影響を受けません。

サウンドステージ

サウンドステージの再生には、位相の整合された再生が要求されます。位相が乱れると、奥行き、楽器の位置、全体の明瞭な見通しが狂います。録音状況をはっきり再現できなくなります。ここで恐ろしいことは、曲について、演奏家と録音家の解釈及びそれぞれの意志統一のもとにきちんと録音されたものが、全く違うものとして再生されてしまうことです。勿論演奏家は、楽譜にもとずき、作曲家の指定した音を弾くわけで、解釈は、この音階の点では入り込む余地はありません。しかし、その音質をどうするか、何を意図して作曲家はこの音楽を創ったか、どのような再現を期待していたのか、といった非常にアカデミックで微細な問題に関しては、演奏家、録音家の解釈を一致させる必要があります。その録音を、もとの音色、音調で再現するには、位相の問題が非常に大きく関わってきます。この、位相とは、時間ファクターに大きく依存します。(所謂、極性とは全く異なる問題で、位相とは、マイクの絶対位相とは違いますのでご注意ください。) この時間特性を正しく再現しないと、理想のスピーカーとはならないこの点にご注目ください。時間特性が狂うと、音の輪郭が、汚れ、にじみ、結果として、楽器の定位、奥行きまでも変形して再生してしまいます。

又、演奏における楽器の位置関係を再現するために、各ユニットの誤差を1/4dbという、非常にシビアな許容範囲に抑えています。これによって、正しいステレオイメージと、音源の位置再生が得られます。更に、楽器が触れるというような、又演奏家がそこにいるという実在感を得るためトランジェントディケイタイムの改善を図るべく特異なフォルムのエンクロージャを考案しました。さらに、再生音の音調という問題も含まれてきます。黒と白の間にどの位細かく微妙な形でグレーが存在するか、又、再生されるか、という問題です。これをダイナミックシェーディングといいます。即ち、スピーカーとは、正しい音階バランス、音色を備えていることは勿論、細かくスムーズで緻密なダイナミックシェーディング、それに時間的特性から見た位相の整合、そして、最弱音の録音レベルを下回る微弱な耳には聞こえないニュアンスをも再生されなければなりません。この目標設定と結果が正しいフォルムであることは、WATTの成功の後に現われた様ざまのスピーカーがWATTのコピーであることから、ご理解頂けるでしょう。各ユニットとエンクロージャに関しては、測定とヒアリングの両方から追い込み、特に厳しい評論を行なうD.ウィルソン自身によって最適のチューニングがなされております。この点は、いかなるスピーカーメーカーでも真似のできないところでしょう。

PUPPY

センセーショナルなデビューをかざったWATTは、残念ながら、入念にセットアップを行わないと低音が不足します。セッティングにあまり左右されずに、その能力を100%発揮するスピーカーを作ることが、最大目標のウィルソンですから、どうしても低音不足をカバーするシステムが必要でした。し

かし、市場にはWATTの反応の速度に見合うハイスピードウーファーがありませんでした。かくして、PUPPYの誕生となります。WATTの美しい再生音と理想的にブレンドし、しかもWATTの良さをそのまま引き出すハイスピードウーファーとなりました。この、至高のコンビネーションにより、WATT/PUPPYの評価は高まり、メジャーフィルムのレコーディングエンジニア、メジャーレーベルのミュージシャンのモニターとして、又、ジャズプレーヤーステージモニターとして採用されるに至りました。PUPPYは32Hzまでの低音を明瞭にハイスピードでストレートに再生します。

WHOW

ウィルソンオーディオには、WAMMという超弩級のシステムがあります。勿論、WATTによってその片鱗を実感することができますが、可聴範囲を超える超低音をWAMMの超低音に少しでも近づく低音をWATTのシステムで再生したい。そのような要望に対するウィルソンよりの回答が、WHOWです。この46cmウーファーは、WATTを使用する条件でのひとつの理想です。綿密な計画と試聴を繰り返し出来上がった、エンクロージャにアクティブクロスオーバーを用意、50Hz以下の超低域をWHOWに受け持たすことによって、空気感、コンサートホールの質感を再現。録音された室内環境までもが、眼前に浮かび上がり、聴き手はまさに音楽の中に在り、音楽を文字どおり経験することができるのです。150Kgを越す重さのWHOWは、15HzまでもWATT/PUPPYのハイスピードに見合う、そして、今までのサブウーファーからは想像もできない程、明晰なクリーンで透明度の高い超低域を再生するのです。

バック・トゥー・ザ・ステージ

演奏会場には固有の定在波が存在し、その定在波によって人間は部屋の大きさ、構造、材質を判断します。デンマークのある心理学者の実験によると、この判断基準になる定在波は8—32Hzの間に存在すると結論されました。より大きな理想を求めて、WATTはWHOWが加わることで、そのサイズからは想像できない、大きなモニターシステムへと成長するのです。そのとき、聴き手は目を閉じれば、時間と場所を越えて、音楽空間へワープします。

終わりに

WATTシステムは素晴らしいモニターで、世界のオーディオファイルから絶賛されていることもおわかり願えたと思います。古い録音のレコードでも、優れた録音であれば、生々しく明瞭に、しかも演奏家、作曲家の意図したニュアンスを豊かに音楽空間に再生します。WATTは、音楽のジャンルを選びません。録音の新旧をも選びません。不要な信号は再生しないのですから、音楽の旨味はそのまの味で再現できるのです。一日も早く、貴殿がWATTを体験され、新たなオーディオの世界にワープなさることを、心より期待しております。音楽の感動は、旬のパッケージを開いてこそ、即ち、録音された環境を再現してこそ、得られるものと言えましょう。



大場商事株式会社

〒107 東京都港区南青山3-1-3 TEL.03-3479-5181